

長岡の元気を回復する 長岡発地方創生へ

市は、10年・20年先のまちの活力を維持し、人口減少社会に対応するため、まちづくりの方向性を示す長岡版総合戦略を平成27年10月末に策定しました。

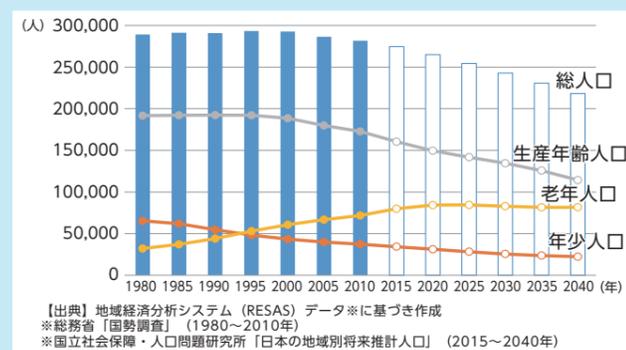
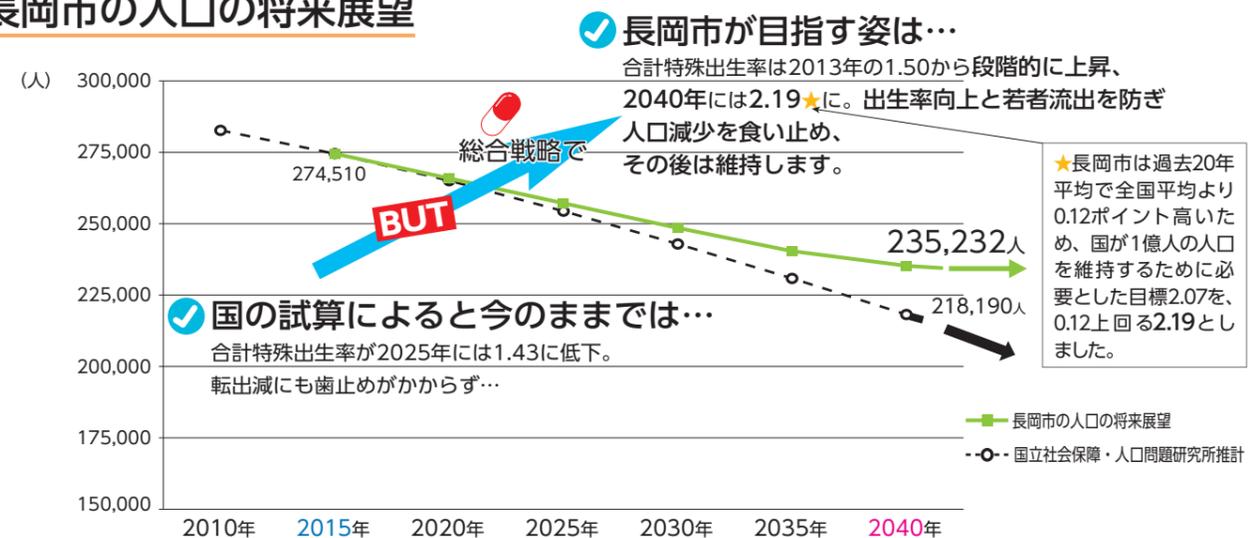
将来にわたって元気で若々しいまちであり続けるために、今後5年間にすべきことを「長岡版総合戦略—長岡リジュベネーション(長岡若返り戦略)」にまとめました。

総合戦略では、将来を担う「若者」を地方創生の主役に据えました。

若者が持っているさまざまな個性と力を活かし、伸ばし、いきいきと活躍するために、その「志」を大切に、長岡人の心に息づく「米百俵の精神」で、10年20年先の未来を担う次の世代に投資する政策を進める必要があります。長岡に住み続ける若者、戻ってくる若者、新たに移住してくる若者をしっかりと確保し、人口減少を抑制し、愛着と誇りの持てる「ふるさと長岡」をつくることを目指します。

若者はもちろん経験豊かな世代も含め、全市民協働で積極的に進めていきます。

長岡市の人口の将来展望



待ったなし！これが長岡の現実です

年齢3区分別人口の分析

- 年少人口(0歳～14歳)は、減少傾向。1990年代後半から老年人口を下回り続けています。
- 生産年齢人口(15～64歳)は、年少人口の減少傾向を受け、2000年代以降、減少を続けています。
- 老年人口は、生産年齢人口が順次老年期に入り平均余命が延びたことから増加を続けています。

長岡版総合戦略—

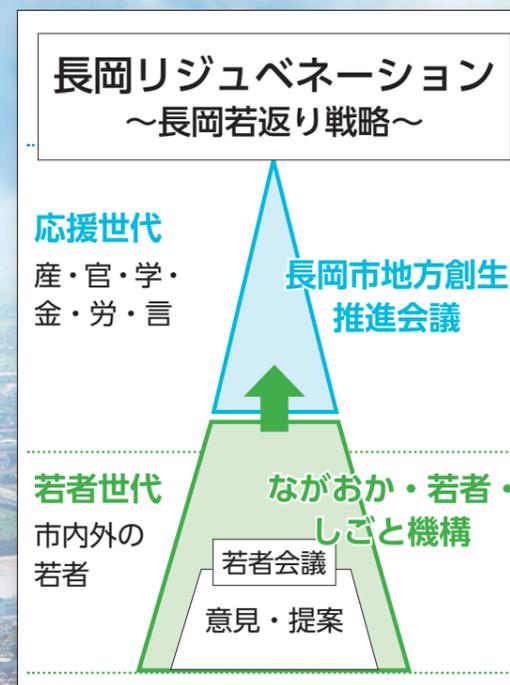
長岡リジュベネーション

リジュベネーション (rejuvenation) …元気回復、若返り

I 若者自身が参加、企画、実現し、魅力を生み出すまちに

II 未来の長岡を担う子どもたちを育てる質の高い教育環境に

III 長岡で頑張っている産業を応援。新たな起業や産業の誘致を促進し「働く場」を確保



若者自らが魅力を生み出すまちづくりを進めます。

「元気回復」のための
3つの処方

※戦略を考える上で大切にしたいこと

長岡リジューベネーション(長岡若返り戦略)

戦略	<h2>1 若者定着</h2>	<h2>2 子育て</h2>	<h2>3 教育</h2>	<h2>4 働く</h2>	<h2>5 交流</h2>	<h2>6 安全安心</h2>	<h2>7 連携</h2>	戦略
<p>主な施策</p>	<p>若者の地元定着やU・Iターンを促進するため、若者自らが魅力を生み出すまちづくりを進めます。</p>  <p>若者会議</p> <ul style="list-style-type: none"> □ながおか・若者・しごと機構を設立し、若者のまちづくりの参画やアイデアの実現などをサポート □学生が空き家や廃校を改装してアトリエやシェアハウス(複数人で共同生活)に活用 □若者の居場所づくり □産官学金が連携し若者が学びたい・働きたい・住みたいと思う情報を発信 □若者が日常生活や買い物、イベントなどを楽しめる魅力あるまちなかを整備 □若者による交流イベント・出会いの機会の創出を支援 □若者が四季を通じて気軽に楽しめるレクリエーション施設の整備、野外ライブ、アウトドア、スポーツなど若者に人気のあるイベントの開催を支援 □新潟アルビレックスBBと市民協働によるまちづくり 	<p>子育て環境を整備し、長岡で子どもを産み育てたいと思う人を増やすとともに、出生率を上げ、人口減少に歯止めをかけます。</p> <ul style="list-style-type: none"> □妊娠から育児まで切れ目のない支援「長岡版ネウボラ」を展開 □子育て応援券の発行など保護者の経済的負担を軽減 □事業所内保育や地域主体の放課後児童クラブなど、企業・地域・多世代で、子育て家庭を支援 □ワーク・ライフ・バランスを実現するため、働きやすい職場づくりに取り組む企業を支援 □保育園親子食育講座などで、食育への関心を高め、早期から健康な食生活の基礎づくりを推進  <p>子育ての駅とちお「すくすく」</p> <ul style="list-style-type: none"> □全地域に、長岡オリジナル「子育ての駅」を整備 □発達が気になる子、配慮を要する子について継続した教育と支援を実施 	<p>米百俵の精神で、質の高い教育と教育環境の整備を進め、長岡に住み続けたい人、長岡に帰ってきたい人、長岡を背負って立つ人を育てます。</p> <ul style="list-style-type: none"> □地域力・市民力を活かしたふるさと教育や伝統芸能、祭りなどの伝承 □子どもの可能性を引き出し、リーダーシップや起業家精神に富んだ子どもを育成  <p>小学生ロボコン大会</p> <ul style="list-style-type: none"> □熱中、感動、本物体験の場の提供を充実し、子どもの個性や能力を伸ばし、やる気や学ぶ意欲を高め、地域や自然を愛する心を育成 □いじめや不登校、特別支援教育などに適切に対応し、落ち着いた学べる教育環境の整備 □世界や全国で活躍できるスポーツ選手などを育成 □小学校から英語教育や国際理解教育を充実 □教育による人づくりの大切さを説く「米百俵の精神」の普及・啓発 □「米百俵の精神」を全国に発信する情報拠点(図書館など)を中心市街地に整備 	<p>雇用の維持・拡大を図るため産官学金の総合力で産業活性化を推進します。特に頑張っている地元企業・地場産業を重点的に支援します。</p>  <p>長岡高専を企業が見学</p> <ul style="list-style-type: none"> □産官学金が連携し、新技術・新製品の開発や新分野進出など、地元企業を支援 □長岡ブランドの競争力強化と情報発信を進め、経営基盤の確立とともに新たな市場開拓や販路拡大を支援 □生産性の向上、6次産業化の推進、効率的な流通体制づくりを支援し、担い手・若者が農林水産業を続けられる環境を整備 □3大学1高専の立地や多様な産業集積という長岡ならではの強み・魅力をPRして企業誘致を促進 □地元企業の事業拡大に伴う移転や誘致企業の進出に対応するため産業団地を整備 □若者などの起業・創業を産官学金が連携して応援 □日本一起業・創業しやすいまちを目指し支援体制を充実 	<p>長岡の歴史、文化、自然、特産品を市民とともに磨き上げ広く国内外に情報発信します。「長岡ファン」を増やすことでひと・モノ・情報の交流を拡大します。</p>  <p>夏休み農村体験</p> <ul style="list-style-type: none"> □観光客の受け入れ環境を整備し、外国人の誘客を推進 □花火・錦鯉・良寛・地酒・食・歴史・技などの長岡の魅力を全国に発信し、誘客を促進 □棚田などの自然景観や撰田屋などの歴史的・文化的な地域の魅力を活用し、交流人口を増加 □国内友好都市との交流を促進し、教育旅行の受け入れなどを誘致 □2020東京五輪の事前合宿を誘致し、交流人口を増加 □火焰型土器、牛の角突き、北前船、良寛、トキなどの地域固有の資源を持つ関係市町村と連携し、国内外に広くアピールし、交流を促進 □真珠湾での長岡花火打ち上げを国内外にアピールし、長岡花火ブランドを確立、世界展開することでさらにファンを増加 	<p>誰もが安全・安心で、いつまでも健康で元気に暮らし続けられる、住民主体の個性豊かなコミュニティをつくり、住みたい、住み続けたいと思うまちづくりを進めます。</p>  <p>夕暮カフェで健康講座</p> <ul style="list-style-type: none"> □健康の基本要素(運動・食・休養)を体験できる情報発信拠点を中心市街地に整備し、市全体に持続的な健康づくり活動を拡大するための各地域の健康拠点と連携 □胃がんリスク検診などの各種検診による早期発見・早期治療で疾病を予防 □認知症の予防や早期対応の体制を強化し、高齢者の健康寿命の延長と介護負担軽減 □新社会福祉センター内に多様なボランティア情報が集まり、多世代が交流できるボランティアセンターを開設。高齢者の活躍の場を広げ、若者世代を応援する環境を整備 □地域NPO法人が、中山間地域での公共交通を確保し、買い物支援と高齢者の見守りを実施 □道路、下水道などの長寿命化を促進 □浸水被害の解消を目指し雨水対策を促進 	<p>近隣・関係市町村や大都市圏との広域連携、国内外の姉妹都市などとの交流を進め、交流人口を増やします。</p>  <p>ホノルルから観光ツアー</p> <ul style="list-style-type: none"> □上越・北陸新幹線を結ぶ着地型旅行商品などを沿線自治体と連携して企画・支援し交流人口を増加 □近隣市町村とさまざまな資源を結集し、交流人口の増加を図るなど、中越地域全体を発展 □国内外の姉妹都市・友好都市と歴史や文化を超えた交流を幅広く推進し、交流人口を増加 □ホノルル市など姉妹都市との青少年交流を拡充するとともに、市民による文化・スポーツ交流を支援しさらなる相互交流を促進 □長岡まつりや雪しかまつりなど地域資源を活かした交流ツアーなどを姉妹都市から誘客 	<p>主な施策</p>

長岡版ネウボラ…保健師や助産師など専門職員が、妊娠前から就学前にかけて切れ目なく家族を支援。子育ての駅や子育てコンシェルジュなどと連携し取り組んでいる